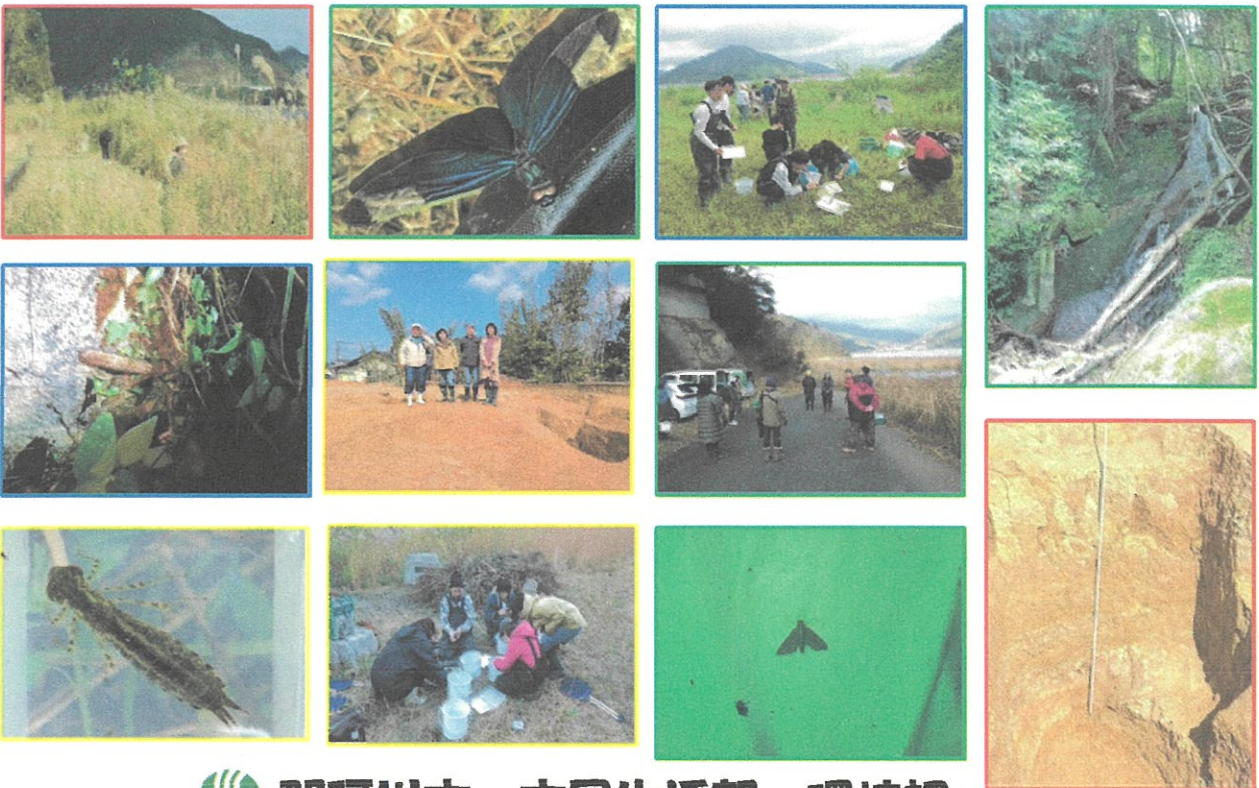




那珂川市自然環境観察員

令和6・7年度 観察結果報告書



安徳台はいつどのようにして出来たの？

（阿蘇火山の噴火で流れてきた火砕流堆積物が溜まって出来ました）



①安徳台は、約9万年前の阿蘇火山大爆発で流れてきた火砕流堆積物(Aso4;火山灰や軽石、岩の破片)で出来ています。

②この火砕流堆積物で那珂川の谷は、今より30m程の高さにまで埋まりました。

③その後火砕流堆積物は那珂川の浸食で無くなり、安徳台などが残りました。安徳台の地表面は殆どたいらです。

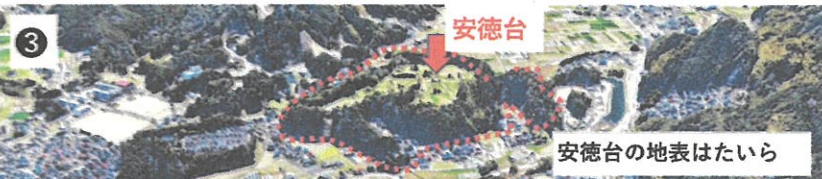
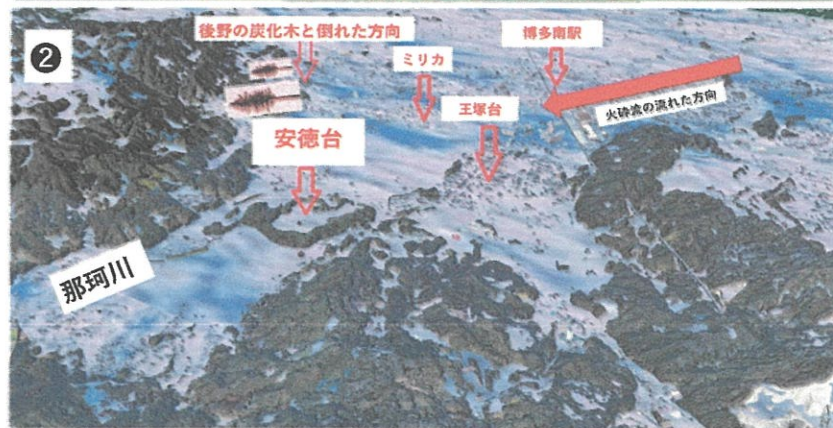
④火砕流堆積物は、裂田の溝にある、縦割目（柱状節理）のある黒っぽい岩でこれは宮崎の高千穂峡と同じ時に出来ました。主成分の火山灰は溶けたマグマが急冷されて出来たガラスです。

⑤また昨年後野の市民体育館裏で、火砕流堆積物に埋もれ焼かれた、炭化木（炭になっている）も見つかりました。火砕流の温度は数百度ともいわれまだ日本人のいなかった？九州や那珂川

一帯は焼野原だったことでしょう。安徳台は地域の歴史を考える上での貴重な記念物（地形・地質）です。大切にしましょう。

（那珂川市自然環境観察員/地形地質班）

2026.03.20



安徳台の成立ち(約7分)

活動報告～動物班～（令和6～7年度）

調査の実施方法

◇場 所 五ヶ山ダム、市内河川、山田、安徳、梶原、後野、松木、今光、中原等

◇時 期 2024年8/22、11/19 2025年1/25、5/31、6/3、7/22、8/5、11/20 2026年2/7

◇方 法 目視（双眼鏡・望遠鏡含）、鳴き声、網（ガサガサ）、ライトトラップを用いた調査等



1.調査・活動結果



1) カワセミ

那珂川市の市鳥であり、鮮やかな瑠璃色の輝きから「空飛ぶ宝石」と称されます。全長 17cm ほどで、嘴が大きく、オスは上下の嘴が黒く、メスは下の嘴が赤いことで見分けられます。水中にダイビングして魚・エビなどを獲ります。五ヶ山周辺だけでなく、市内の河川や水路・池などでも広く観察されます。



2) カルガモ

日本では古くから「万葉集」にも詠まれ、那珂川市でも一年を通じて河川や水田で観察される馴染み深い留鳥（りゅうちょう）、雌雄はほぼ同色で、主に植物を食べています。初夏には親鳥の後を追って一列に泳ぐ雛の愛らしい姿が市民に親しまれており、那珂川の穏やかな水辺環境の豊かさを象徴する存在です。



3) アカハライモリ（絶滅危惧Ⅱ類 [VU]）

「井戸（または田んぼ）を守る」が名の由来とされる日本固有種です。腹部の鮮やかな赤色は捕食者への警告色ですが、失った体を再生する驚異的な能力でも知られます。市内の水田やビオトープなど、豊かな水辺環境で今もその姿を見ることができます。



4) ニホンアカガエル（絶滅危惧Ⅱ類 [VU]）

日本の固有種で、1月から産卵を始める「早春の使者」とも言えるカエルです。水路の整備や乾燥化など環境変化の影響を非常に強く受けやすい種ですが、市内では里山の湿地など、適切な環境が維持されている場所で継続的にその姿が観察されています。



5) トウヨシノボリ

吸盤状の腹鰭で川底の石や護岸に張り付く姿が特徴的な身近な川魚の代表格です。止水域や緩やかな流れを好み、ビオトープ内の流れ込みなどで観察されました。肉食性で水生昆虫などを捕食し、春から夏にかけては石の下に巣穴を作って繁殖する、那珂川の豊かな里山生態系を支える種の一つです。



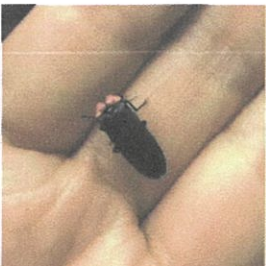
6) ニホンカナヘビ

日当たりの良い林縁や草原を好み、素早く動き回って昆虫などを捕食する、里山環境を代表する爬虫類です。草むらや石垣などでその姿が観察されました。昆虫を捕食する一方で、鳥類やヘビ類の重要な餌資源にもなっており、複雑で豊かな生態系のピラミッドを支える基盤的な存在です。



7) コオイムシ (準絶滅危惧 [NT])

メスがオスの背中に卵を産み付け、オスはその卵を保護して移動する「子負虫」の名の通りのユニークな習性を持つ水生昆虫です。かつては身近な存在でしたが、農薬の影響により激減しており、現在では豊かな水辺環境のバロメーターとなっています。



8) ゲンジボタル

清流域でカワニナを食べて育つ幼虫は、護岸が自然な状態で保たれた環境を必要とし、初夏の乱舞は地域の水辺環境が健全である何よりの証です。市内の良好な河川環境で繰り広げられる幻想的な光の通信は、未来へ守り伝えていくべき那珂川の貴重な里山生態系のバロメーターとなっています。



9) ユビナガコウモリ (準絶滅危惧 [NT])

昼間は洞窟などに潜み、日没後に河川や森林で数百匹ものユスリカやカなどの昆虫を捕食して飛び回る種類です。市内の特定の環境において数十匹が固まって暖を取る貴重な姿が観察されました。冬場、安定した温度・湿度が保たれる「ねぐら」を確保することが、彼らの越冬にとって極めて重要です。

2. 活動のまとめと今後の展望

令和6～7年度は、五ヶ山ダムエリアに整備された「倉谷第2ビオトープ」を中心に定着状況を多角的に検証した。両生類から猛禽類まで、多様な生物がこの環境を利用していることが確認できた。

今後は、倉谷第2ビオトープの調査を軸に、同日同時刻に市内各地でのホタル観測やライトトラップなどの調査も続けていきたい。



活動報告～植物班～(令和6年～7年度)

植物班では主に四季ごと(年に3～4回)に五ヶ山ダムの倉谷第2ビオトープにて観察を行いました。2年間の活動の中で観察できた植物の一部を紹介します。

春

キツネノボタン(狐の牡丹)



キンポウゲ科

草丈 20-80cmの多年草
花:4-7月(黄色)
名はキツネが棲むような野原に生え、葉が牡丹に似ること由来。花後に金平糖のような実(有毒)ができる。

ニワゼキショウ(庭石菖)



アヤメ科

草丈10-20cmの一年草
花:4-6月(帯紫白色～紅紫色)
和名は庭に生えるセキショウ(葉がセキショウに似る)を意味する。花は一日花(朝に開いた花は夕方にはしぼむ)

夏

ヘクソカズラ(屁糞葛)



アカネ科

草丈2-3mの蔓性多年草
花:8-9月(白色、中央部は紅紫)
蔓や葉に強いにおいがあるのが名の由来。田植えの頃にきれいな花を咲かせることからサオトメバナとかタウエバナの名前もある

ツリフネソウ(釣船草、吊舟草)



ツリフネソウ科

草丈30-80cmの一年草
花:8-10月(赤紫色)
花が柄の先にぶら下がって咲くのが特徴
半日陰の湿地や水辺の草むらに群生

秋

ゲンショウコ(現証扱)



フクロソウ科

草丈30-70cmの多年草
花:7-10月(紅紫色、白紫色)
古くから良質の下痢止めや胃薬、茶として利用され、ゲンショウコは「実際に効く」を意味する名前

ススキ(芒、薄)



イネ科

草丈1-2mの多年草
花穂:8-10月(白色)
尾のような花穂が特徴で「尾花」とも呼ばれる秋の七草のひとつ。また、茅(萱)と呼ばれる有用植物の主要な一種。

木本

クマシデ(熊四手)



カバノキ科

樹高10-15mの落葉高木
花:4-5月(黄褐色)
果実が米粒(米の古語が「クマ」)に、垂れ下がった果穂が四手(しめ縄などに下げる紙)に似ていることが名の由来

クサギ(臭木)



シソ科

樹高2-5mの落葉低木
花:7-9月(白色)
葉をもむと悪臭がすることが名の由来。若葉は山菜として、根は薬用、実は染料利用される。

エゴノキ(薺の木)



エゴノキ科

樹高8mの落葉小高木
花:5-6月(白色)、実:9-10月
果皮の味のえぐさが名前の由来。果皮に含まれるサポニンには泡立ち殺菌作用があり、かつては石鹼の代用として利用

リョウブ(令法)



リョウブ科

樹高7-8mの落葉小高木
花:6-9月(白色)
昔から若葉が食用とされ、飢饉の備えとしてリョウブの植栽と貯蔵を命ずる官令「令法(りょうぼう)」が名の由来